

職場における熱中症による死傷災害の発生状況
(平成 29 年 1 月末時点速報値)

1 熱中症による死傷者数の推移 (平成 19～28 年分)

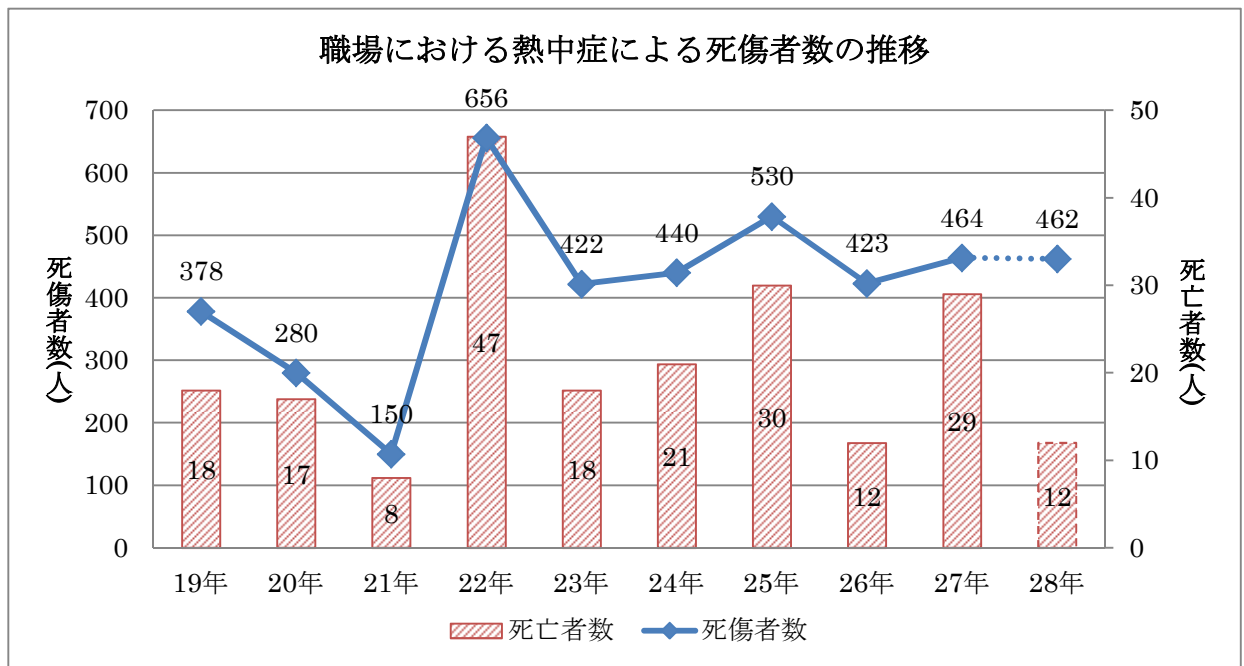
過去 10 年間 (平成 19～28 年) の職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の業務上疾病者の数 (以下合わせて「死傷者数」という。) をみると、平成 22 年に 656 人と最多であり、その後も 400～500 人台で推移している。

平成 28 年の死亡者数は 12 名と平成 27 年に比べ減少したが、死傷者数は、平成 27 年とほぼ同数となっている。

職場における熱中症による死傷者数の推移 (平成 19～28 年) (人)

19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年
378	280	150	656	422	440	530	423	464	462
(18)	(17)	(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(29)	(12)

() 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数



※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。

2 業種別発生状況（平成 24～28 年）

過去 5 年間（平成 24～28 年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生しており、全体の約 5 割がこれらの業種で発生している。

平成 28 年は、前年に死亡災害が多発した建設業、警備業のうち、警備業においては、死亡災害の発生はなかったが、建設業では、死亡災害全体の半数に当たる 6 名が死亡した。

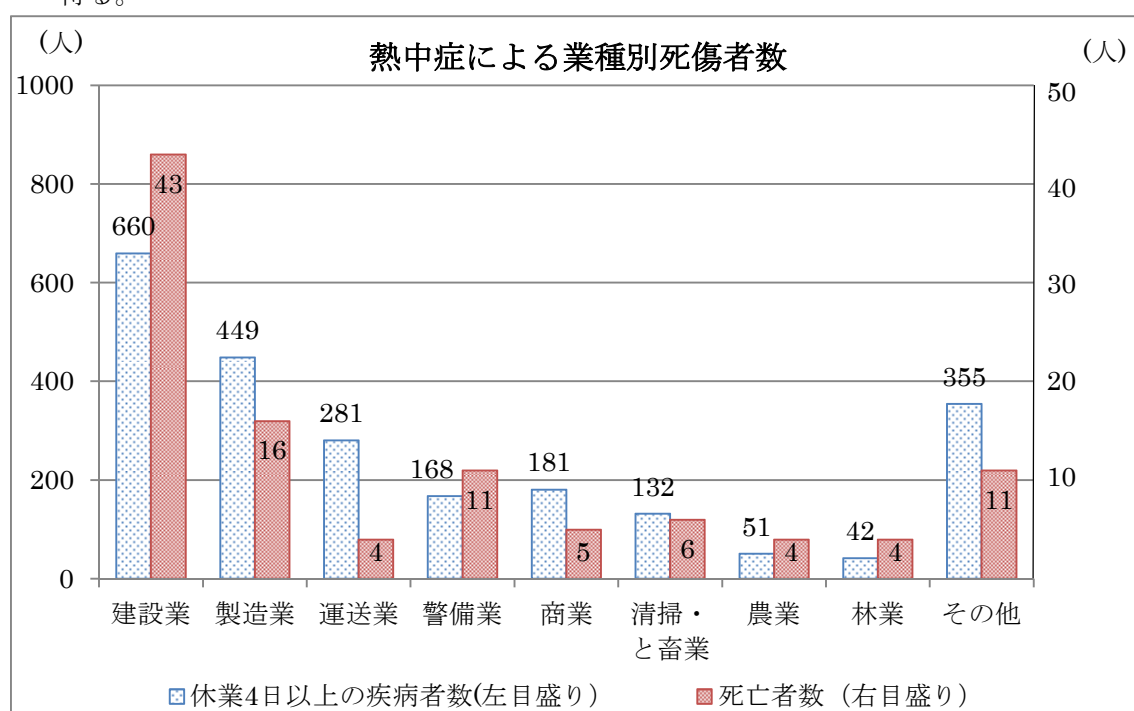
熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成 24～28 年）

（人）

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
平成 24 年	143 (11)	87 (4)	43 (0)	27 (2)	35 (0)	28 (1)	7 (0)	6 (2)	64 (1)	440 (21)
平成 25 年	151 (9)	96 (7)	68 (1)	53 (2)	31 (3)	28 (2)	8 (1)	8 (1)	87 (4)	530 (30)
平成 26 年	144 (6)	84 (1)	56 (2)	20 (0)	28 (0)	16 (0)	13 (1)	7 (0)	55 (2)	423 (12)
平成 27 年	113 (11)	85 (4)	62 (1)	40 (7)	50 (0)	23 (2)	13 (1)	8 (0)	70 (3)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	109 (6)	97 (0)	52 (0)	28 (0)	37 (2)	37 (1)	10 (1)	13 (1)	79 (1)	462 (12)
計	660 (43)	449 (16)	281 (4)	168 (11)	181 (5)	132 (6)	51 (4)	42 (4)	355 (11)	2,319 (104)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。

※平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況（平成 24～28 年）

平成 24 年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の約 9 割が 7 月及び 8 月に発生している。

平成 28 年の死亡者数は、7 月は 1 名であったが、8 月に 7 名が死亡した。

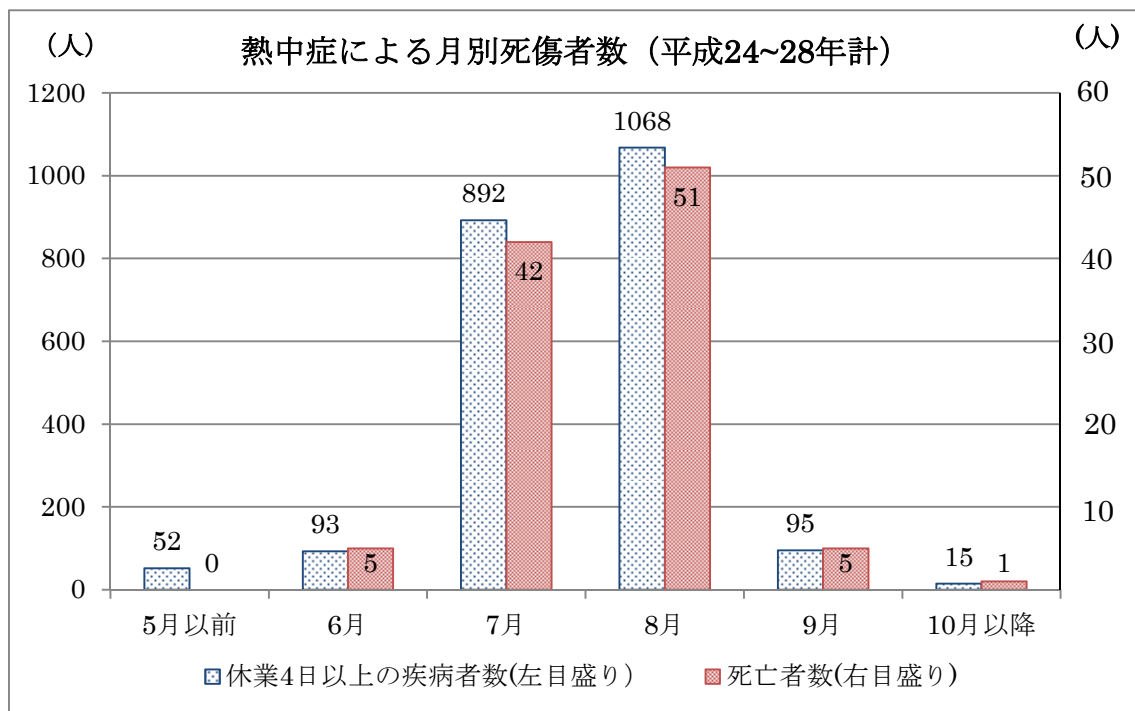
熱中症による死傷者数の月別の状況（平成 24～28 年） (人)

	5 月 以前	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月 以降	計
平成 24 年	3 (0)	6 (0)	194 (11)	202 (9)	35 (1)	0 (0)	440 (21)
平成 25 年	16 (0)	15 (1)	185 (14)	295 (14)	12 (0)	7 (1)	530 (30)
平成 26 年	6 (0)	32 (0)	182 (6)	191 (5)	8 (1)	4 (0)	423 (12)
平成 27 年	15 (0)	19 (2)	212 (10)	210 (16)	7 (1)	1 (0)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	12 (0)	26 (2)	161 (1)	221 (7)	38 (2)	4 (0)	462 (12)
計	52 (0)	98 (5)	934 (42)	1,119 (51)	100 (5)	16 (1)	2,319 (104)

※ 5 月以前は 1 月から 5 月まで、10 月以降は 10 月から 12 月までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



(2) 時間帯別発生状況（平成 24～28 年）

平成 24 年以降の時間帯別の死傷者数をみると、14～16 時台に多く発生している。なお、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化して病院へ搬送されるケースも散見される。

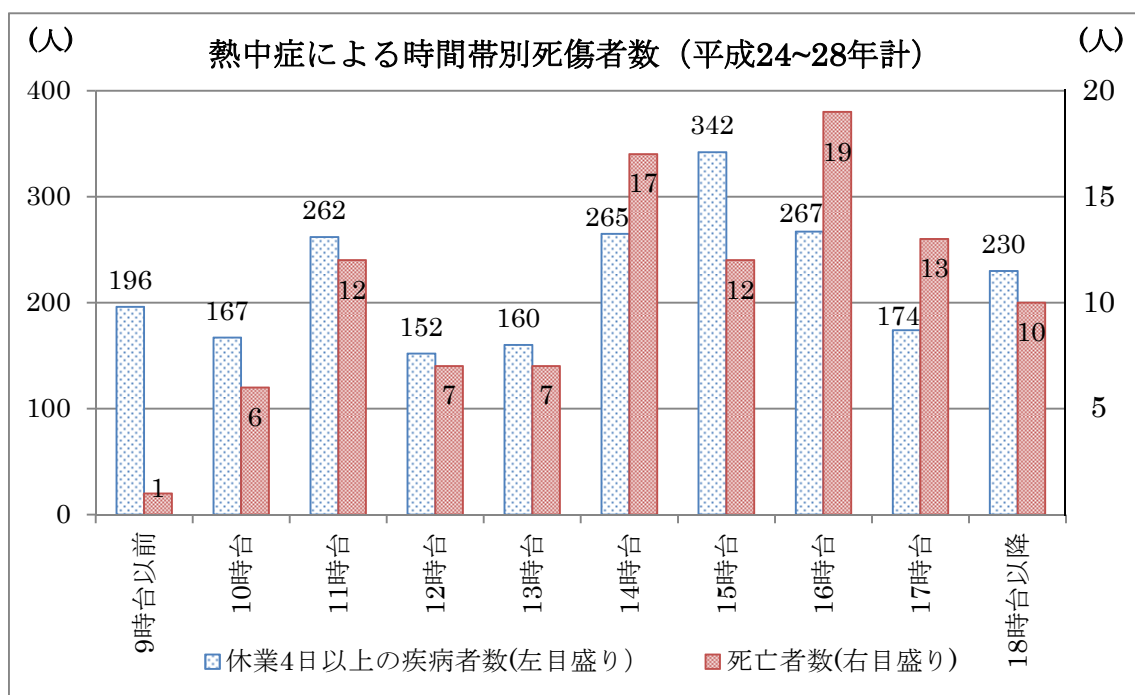
熱中症による死傷者数の時間帯別の状況（平成 24～28 年）（人）

	9 時 台 以 前	10 時 台	11 時 台	12 時 台	13 時 台	14 時 台	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 時 台 以 降	計
平成 24 年	39 (0)	34 (3)	60 (4)	35 (2)	31 (1)	53 (2)	67 (2)	50 (3)	31 (1)	40 (3)	440 (21)
平成 25 年	40 (0)	40 (2)	55 (2)	25 (1)	29 (1)	68 (6)	78 (3)	88 (6)	49 (6)	58 (3)	530 (30)
平成 26 年	24 (0)	39 (0)	46 (2)	43 (1)	32 (1)	47 (2)	69 (1)	48 (3)	31 (0)	44 (2)	423 (12)
平成 27 年	45 (0)	23 (1)	61 (3)	34 (2)	41 (3)	59 (6)	66 (3)	53 (5)	37 (4)	45 (2)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	49 (1)	37 (0)	52 (1)	22 (1)	34 (1)	55 (1)	74 (3)	47 (2)	39 (2)	53 (0)	462 (12)
計	197 (1)	173 (6)	274 (12)	159 (7)	167 (7)	282 (17)	354 (12)	286 (19)	187 (13)	240 (10)	2,319 (104)

※ 9 時台以前は 0 時台から 9 時台まで、18 時台以降は 18 時台から 23 時台までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



4 平成28年の熱中症による死亡災害の事例（速報^(注1)）

番号	月	業種	年代	事案の概要
1	6	林業	60歳代	被災者は、広葉樹の伐採現場において、他の労働者とともに午前10時から立木の伐倒及び造材作業を行っていた。午後3時頃、同僚が伐倒作業を行っていた被災者に作業終了を告げ、先に集合場所へ戻ったが、なかなか被災者が集合場所に戻らないため、再度、呼びに行ったところ、斜面に倒れている被災者を発見した。医療機関に救急搬送したが、4日後に死亡した。被災者は当該事業場の労働者として作業に従事した初日であった。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は、30.3℃（参考^(注2)） ・被災者に対する健康診断が実施されていなかった。
2	6	廃棄物処理業	50歳代	午後から敷地内の草刈り作業を行うこととなり、被災者は午後1時から午後2時30分まで草刈機で草刈り作業を行い、1時間の休憩後、同僚と共に敷地内の雑木の切り枝の回収業務等を行い、午後4時に作業を終えた。作業終了後、被災者はベンチで休憩を取っていたが、午後4時30分頃嘔吐し、発汗が多かったことから熱中症の疑いで救急搬送された。搬送後意識を失い、翌々日死亡した。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は、28.4℃（参考^(注2)） ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。

3	7	農業	50 歳代	被災者は、7時よりビニールハウス内や屋外で、苗の水やり等の作業を行っていた。同僚と被災者の2名は、15時50分頃から始めたビニールハウス内の夜冷库への苗の移動作業中、辛そうな様子の被災者を確認した同僚から休んでいるように促されビニールハウス内で休憩をしていたところ、同僚が被災者の異変を感じ、救急車で病院に搬送したが、搬送先の病院で5日後に死亡した。被災者は採用3日目であった。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は、33.1℃(参考^(注2))
4	8	建築工事業	30 歳代	被災者は、基礎型枠の解体作業において、単管等の資材の受け渡し等の作業に従事していたが、体調が悪くなってうずくまり、その後、その場に倒れこんだ。すぐに救急車を手配して病院へ搬送したが、およそ3時間後に死亡が確認された。被災者は採用3日目であった。また、発注者が現場近くで測定していた作業時のWBGT値は、27℃であった。
5	8	建築工事業	30 歳代	災害発生当日、被災者はマンション新築現場にてコンクリート打設の補助をしていた。昼の休憩後、午前中の作業の続きを始めたが、13時30分頃、突然転倒したので小休止を取らせ様子をみていたが、顔色が悪く、熱中症が疑われたので、救急車で病院へ搬送した。救急隊が到着した時は意識があったが、15時前に意識を失い、4日後に死亡した。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は、30.9℃(参考^(注2))
6	8	商業	20 歳代	事業場にて商談、展示車両の洗車業務等に従事していた労働者が、17時30分頃、事業場内の清掃作業中に頭痛を訴えた。2階の休憩室で休養し、19時過ぎに帰宅した。翌8日の朝、起床してこないことから、家族が様子を見にいったところ、呼吸停止の状態で見つされた。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は32.0℃(参考^(注2))
7	8	商業	60 歳代	被災者は始業後30分程回収資源の仕分け作業を行った後、トラックの荷台に上がり、回収してきたアルミサッシ片をヤードに卸す作業を行っていたところ、当該作業を開始した数分後に、突然、後ろ向きに倒れ込み、ほとんど意識のない状態で同僚に見つされた。その約20分後に救急搬送され、蘇生処置が続けられていたが、翌日死亡が確認された。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は29.6℃(参考^(注2))
8	8	その他の事業	40 歳代	被災者は、標高約100メートルの山頂にある無線中継所のアラーム障害の点検復旧を行うため、単独で入山した。午後0時頃から午後1時30分頃まで点検復旧作業を行った後、下山したが連絡が取れなくなり、翌朝山の斜面で倒れているのを発見された。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は30.6℃(参考^(注2))

9	8	土木工事業	50歳代	道路わきの案内看板移設工事を行っていた被災者が体調不良を訴えたため、日陰で休ませていたが、その後意識混濁状態になっているところを発見された。すぐに救急車で病院に搬送したが、翌日死亡した。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は31.5℃（参考^(注2)）
10	8	土木工事業	40歳代	被災者は、町道の舗装工事において、朝礼後の8時30分から、同僚1名と共にロードカッタを操作し、アスファルトを切削する作業に従事した。12時前に作業が終了し、後片付けしていたところ、気分が悪くなり、倒れこんだため、病院に運ばれたが、死亡した。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は29.4℃（参考^(注2)）
11	9	その他の建設業	30歳代	土壌等の仮置場において、密閉容器から鋼製容器に土壌等を入れ替えるため、被災者は密閉容器のふたを開ける作業を行っていたところ、暑さによる疲れがみられたため車で休憩していたが、15分後に体調が急変し病院に搬送された。意識不明であったが、2週間後に死亡した。被災者は現場入場2日目であった。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は31.1℃（参考^(注2)） ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。
12	9	土木工事業	30歳代	屋根の防水工事において、被災者は午前8時から当該工事の補助作業に従事していたが、17時頃作業終了後、同僚と現場近くの宿舎に徒歩で戻り、17時50分頃、宿舎エレベーターを降りたところで意識を失い倒れた。直ちに病院に搬送されたが、翌日死亡した。 ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は30.7℃（参考^(注2)） ・被災者に対して熱への順化期間は設けられていなかった。 ・被災者に対する健康診断が実施されていなかった。 ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。

（注1）平成29年1月末時点の速報であり、今後、内容が修正されることがあり得る。

（注2）現場でWBGTの測定が行われていなかった事例には、環境省熱中症予防サイトで公表されている現場近隣の観測所におけるWBGT値を参考値として示した。